



「隣人愛」に基づく SSH

すべての科学技術や人間の活動はキリスト教信仰の「隣人愛」に基づき、世界の人々環境に深く配慮されたものでなければならないと考えます。

今回は、港町診療所の沢田医師による「公衆衛生と環境」と題するSSH特別講演会を中心に、日本森林学会の高校生ポスター発表において、自然科学同好会のメンバーが奨励賞を授与されたことをご紹介します。また、今年度の生徒SSH委員をご紹介します。

《第1回SSH特別講演会 5月19日》

講演テーマ

「公衆衛生と環境」

～アジアのスラムで学んだこと、私たちの健康な社会のために～
沢田貴志先生

(港町診療所所長・シェア＝国際保健協力市民の会副代表)



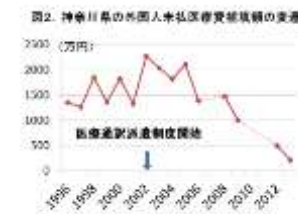
講演は、スラムでの衝撃的な映像と内容で始まり、先生の実体験を通したお話に、生徒たちは引き込まれていきました。また、医療通訳派遣制度など、先生が現在取り組んでいる命の格差に取り組むネットワークについての話を伺いました。

経済格差だけでなく、環境や教育など様々な要因によって健康格差が生じている現状を学び、健康な社会を作るために互いに支え合う必要性があることについて学習しました。



【生徒の感想より】

- ・自ら参加する、助け合うことが貧しい地域では必要なのだと勉強になりました。また、教育の重要性を改めて感じました。
- ・医療通訳がないととても不便で、時には人の命に係わるかもしれないと思うと、あらためて言語の大切さを知ることができました。
- ・同じ地球に住む仲間なのにこんなに生活に差があつてはいけないし、全世界で協力して改善しなければいけない問題だと感じました。



医療通訳がないことの不利益

- 患者にとって**
病状を伝え難い
説明がわからず不安
- 自治体にとって**
診療の遅れ
不要な検査の増加
疾病の増加
社会の不安定化
自治体の負担の増加
- 病院にとって**
誤解に基づく診断の誤り
時間がかかる
平傷によるトラブル

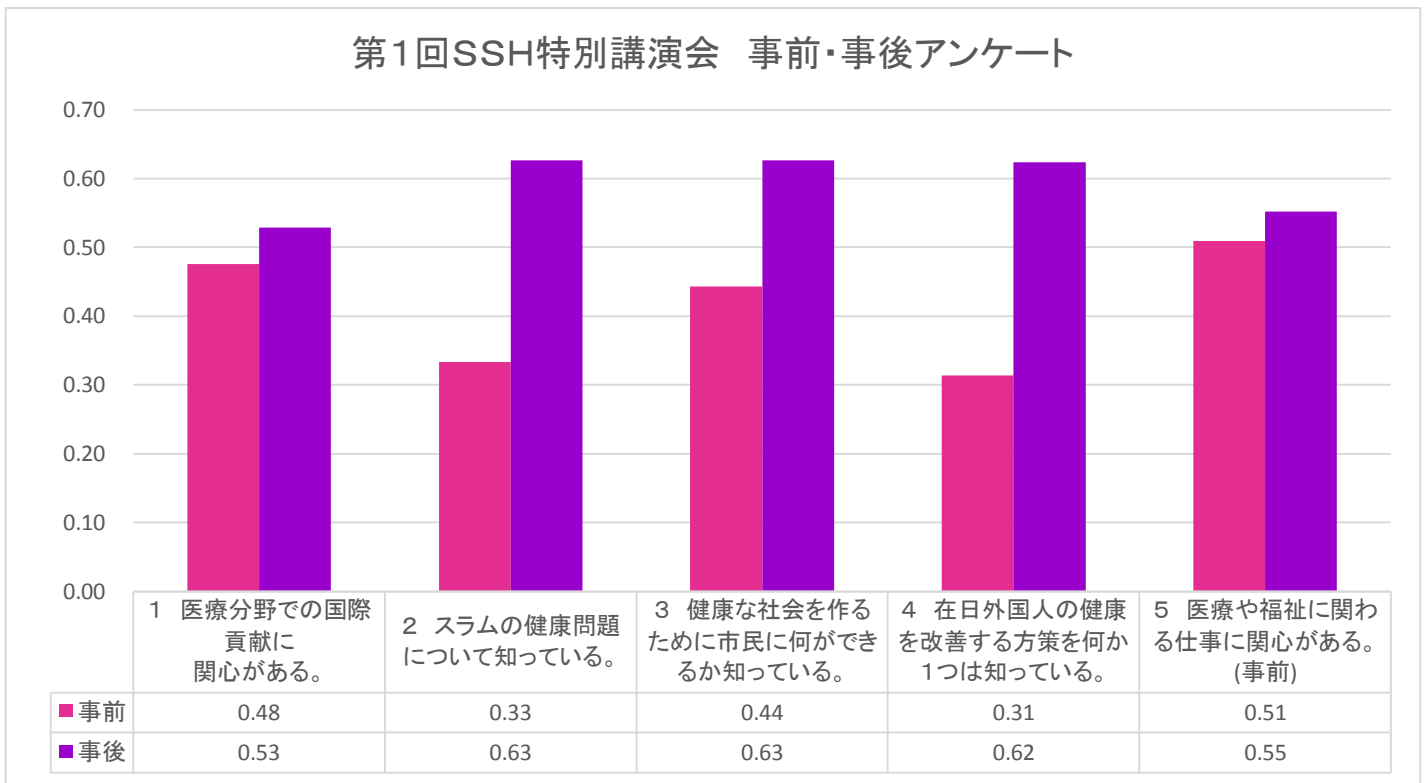


【保護者の感想より】

・講演を通して自らもっと知りたいと思い、考え、将来、じぶんが努力したこと、学んだことを、自分の利益のためだけではなく、人のため、世界のために貢献できる人になってほしいです。

講演の事前・事後アンケートの結果、「医療分野での国際貢献」や「医療・福祉にかかわる仕事」に対する関心が高まりました。また、「スラムの健康問題」や、「在日外国人の健康問題」、「健康な社会を作るためにできること」に関する知識について、「知っている」と答える生徒が大幅に増え、68～77%の生徒が肯定的な答えをしました。

第1回SSH特別講演会 事前・事後アンケート

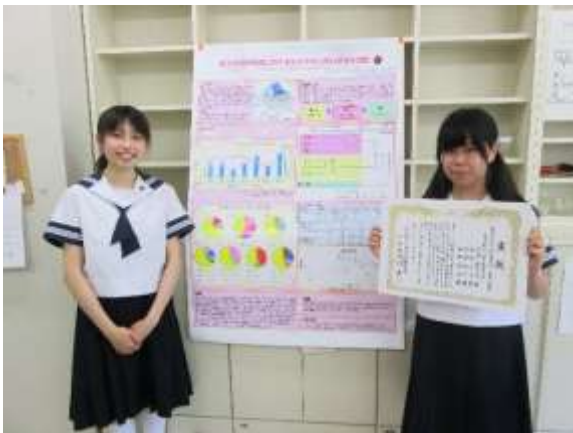


「そう思う」1点 「だいたいそう思う」0.67点 「あまりそう思わない」0.33点 「そう思わない」0点で計算

《日本森林学会奨励賞授与される》

去る3月27日～30日、神奈川県藤沢市の日本大学生物資源科学部において、第127回日本森林学会（会員数2217名）が実施されました。本校から「高校生ポスター発表」部門に「富士北麓地域におけるササラダニ類の多様性調査」をエントリーし、発表しました。

その結果、森林・林業の発展と森林科学におおきな活力をもたらした、として奨励賞が授与されました。この研究は世界文化遺産としてユネスコから登録されたことを期に、文化庁環境省などの許可を受け森林を地中から支えるササラダニに注目して富士北麓の生物多様性を明らかにしようとしたものです。



《2016年度生徒SSH委員会発進》

2016年度の「生徒SSH委員会」メンバーが決定しました。SSH委員は、講演会や発表会の運営に関わり、研修等でもリーダーとして働きます。生徒自らが積極的に準備や司会進行に携わり、より深い学びが得られることをねらいとしています。高校1,2年生から選出された総勢25名です。5月19日の講演会が初仕事となり、2年生を中心に挨拶や司会など早速活躍する機会がありました。今後のさらなる彼女らの奮闘を期待します。



次号は、6/9の山梨大学の研究室訪問の様子をお伝えします。

